

2024年 4月 卒後藤谷塾 議事録
開催日 2024年 4月10日(水) 7:00~8:00

■活動報告

- ①所属部署
- ②活動内容
- ③困っていること、その他相談など

【7期生】

A(神奈川県)

- ①看護部
- ②特定行為実施、救急初期対応、外来初診患者問診、モニター変化対応、手術助手
- ③なし

B(福岡県)

- ①看護部
- ②内科入院患者の入院管理、特定行為実践
- ③なし

C(愛知県)

- ①看護部
- ②整形外科・内科入院管理、手術助手、全身麻酔維持、特定行為実践
- ③なし

D(神奈川県)

- ①総合診療部 総合診療内科
- ②患者担当、指導医の指導を受けながら診療へ介入、微量元素チーム
特定行為 (A line、PICC など)
- ③なし

【8期生】

E(東京都)

- ①診療部
- ②総合診療科での臨床研修
- ③なし

F(埼玉県)

- ①看護部

- ②循環器内科での朝の回診(心エコー)と緊急カテ、救急外来で卒後臨床研修、手順書作成
- ③診療会議・医療安全委員会や師長会・副師長会等の色々な会議で、特定行為に係る看護師についてご説明、プレゼンテーションするのが難しいです

G(東京都)

- ①看護部
- ②救急外来で臨床研修
- ③なし

H(新潟県)

- ①看護部
- ②外来、病棟、介護医療院、特養にて臨床研修
- ③なし

J(東京都)

- ①看護部
- ②4月から7月末まで内科で指導医の元臨床研修
- ③なし

K(沖縄県)

- ①看護部
- ②外来業務、指導医のもと特定行為実践
- ③なし

L(東京都)

- ①看護部
- ②老健クラスターにより、看護師不在となったため、スタッフとして業務
- ③なし

M(奈良県)

- ①診療支援室
- ②循環器内科・糖尿病内科で臨床研修中。2カ月の予定。
- ③なし

■症例発表

タイトル

治療抵抗性肺炎の治療経過中、抗 SS-A 抗体の陽性が判明した症例

一文サマリー

大酒家、past smoker で脊柱管狭窄症の手術歴がある ADL 自立した 70 歳代男性が、10 日前からの呼吸困難と前日からの発熱のため救急要請、重症細菌性肺炎のため入院し、人工呼吸器管理を開始した症例。

Active Problem List

- # 1 発熱
- # 2 呼吸困難感
- # 3 高度低酸素血症
 - # 重症細菌性肺炎
- # 4 低 Na 血症
- # 5 脊柱管狭窄症 OPE 後

最終診断

- # 治療抵抗性肺炎
- # IPAD
- # シェーングレン症候群疑い

総合考察

IPAF (interstitial pneumonia with autoimmune features)

膠原病関連間質性肺疾患 (CTD-ILD) として、特定の膠原病の分類基準は満たさないものの、突発性間質性肺炎 (IP) とするには何か膠原病らしさがあるというサブグループが存在。

2015 年に米国胸部学会 (ATS) と欧州呼吸器学会 (ERS) が IPAF (interstitial pneumonia with autoimmune features) という概念、分類基準を提唱。

この分類基準は次の 4 つの柱からできている

- ① 間質性肺炎の存在
- ② 明らかな原因がないこと
- ③ 特定の膠原病の分類を満たさないこと
- ④ 膠原病らしさの有無

- ・ 本症例は治療抵抗性肺炎としてステロイド治療が奏功した。
- ・ IPAF と認識することで、膠原病の症状が出てこないかをフォローすることができる。
- ・ 通常の突発性間質性肺炎、特に突発性肺線維症では免疫抑制剤が使用されることは少ないが (急性増悪を除く)、IPAF では免疫抑制剤が有効である場合があるため、検討する価値がある。

<筑井さん>

・卒後藤谷塾はみんなで臨床推論することが目的なので、タイトルには最終診断が推測できる情報を記載しないほうが良い。

例 “特に既往のない男性が呼吸苦を主訴に来院した症例“

・市中肺炎の代表的な原因菌は覚えておく

(細菌性肺炎の代表的な原因菌：肺炎球菌、インフルエンザ菌、モラキセラなど)

(否定形性肺炎の代表的な原因：マイコプラズマ属、レジオネラ属、クラミジア属など)

(肺もまれにクラミジア、と語呂合わせで覚えるのがお勧めです)

・肺炎で短期間で増悪する原因は、肺炎球菌、レジオネラ属、など。本症例は短期間で増悪しているが、痰培養からは短期間で増悪するような原因菌は検出されていない。違和感を抱くことが大切。

・人工呼吸器管理中の患者が突然酸素化が低下したら、気胸を疑ってレントゲン撮影前に肺エコーを！Lung slidingの有無と sea shore signを確認する！

・ステロイド使用時は合併症に注意する必要がある。赤本（総合内科病棟マニュアル 病棟業務の基礎 P 310～）を一読することをお勧めします。

<藤谷塾長>

・市中型 MRSA とインフルエンザ桿菌も重症化するリスクがあることに注意が必要。

・抗 SS-A 抗体が陽性のため、間質性肺炎が疑わしい。以前から何らかの呼吸器症状を呈していた可能性がある。ほかにも、関節炎やニューロパチーの所見がなかったのか気になる。

・10 日前の発症、は疑わしい。もっと前から労作時の呼吸困難など何らかの症状があった可能性がある。